

生徒指導 I

『生徒指導提要』の改訂をふまえた

これからの生徒指導の方向性

関西外国語大学

教授 新井 肇



独立行政法人教職員支援機構

- 1 『生徒指導提要』改訂の背景
- 2 生徒指導とは何か　—定義・目的・目標—
- 3 これからの生徒指導の方向性

1 『生徒指導提要』 改訂の背景

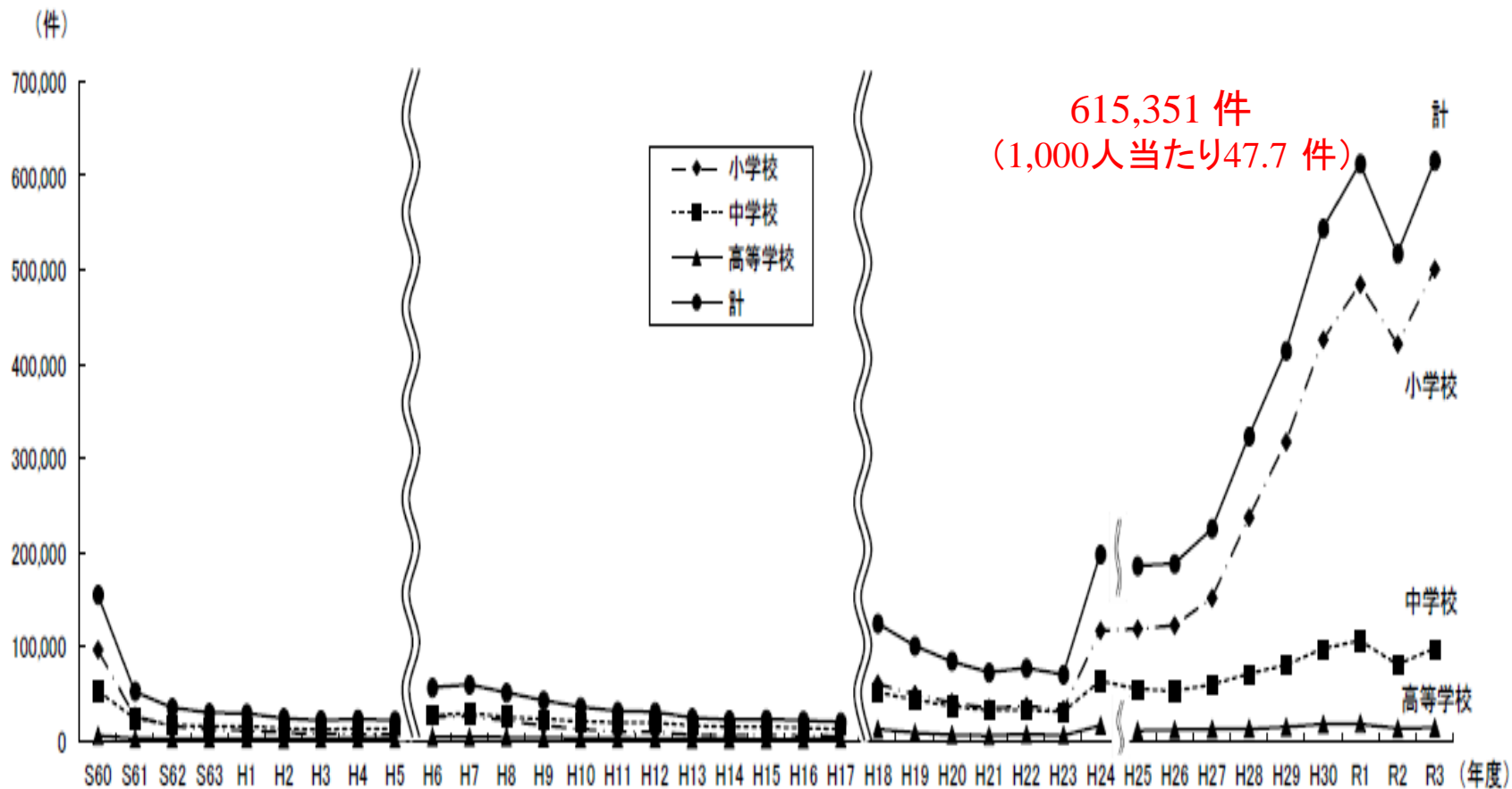
1 『生徒指導提要』改訂の背景

1 問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題の増加

1) いじめの増加と深刻化

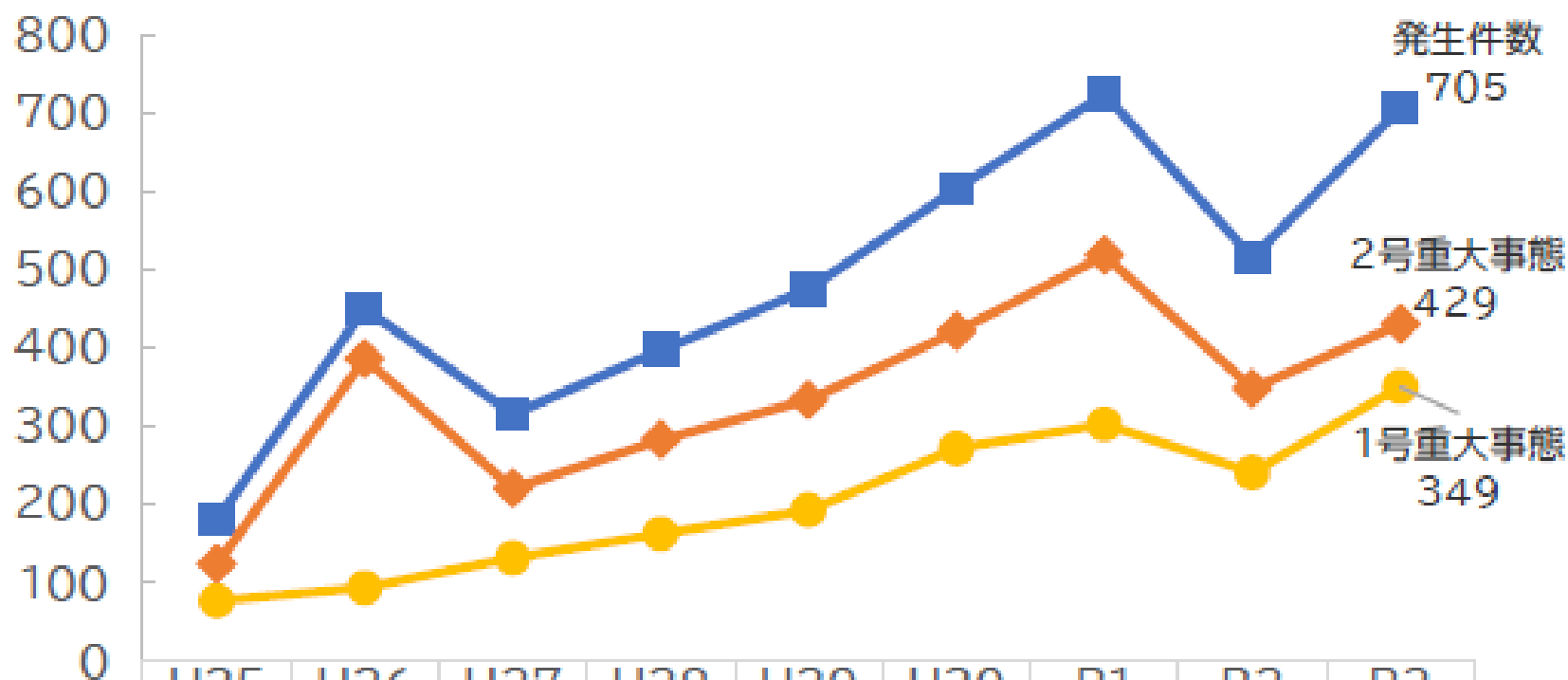
いじめの認知（発生）件数の推移

(文部科学省：令和3年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査)



1 『生徒指導提要』改訂の背景

いじめの重大事態発生件数の推移



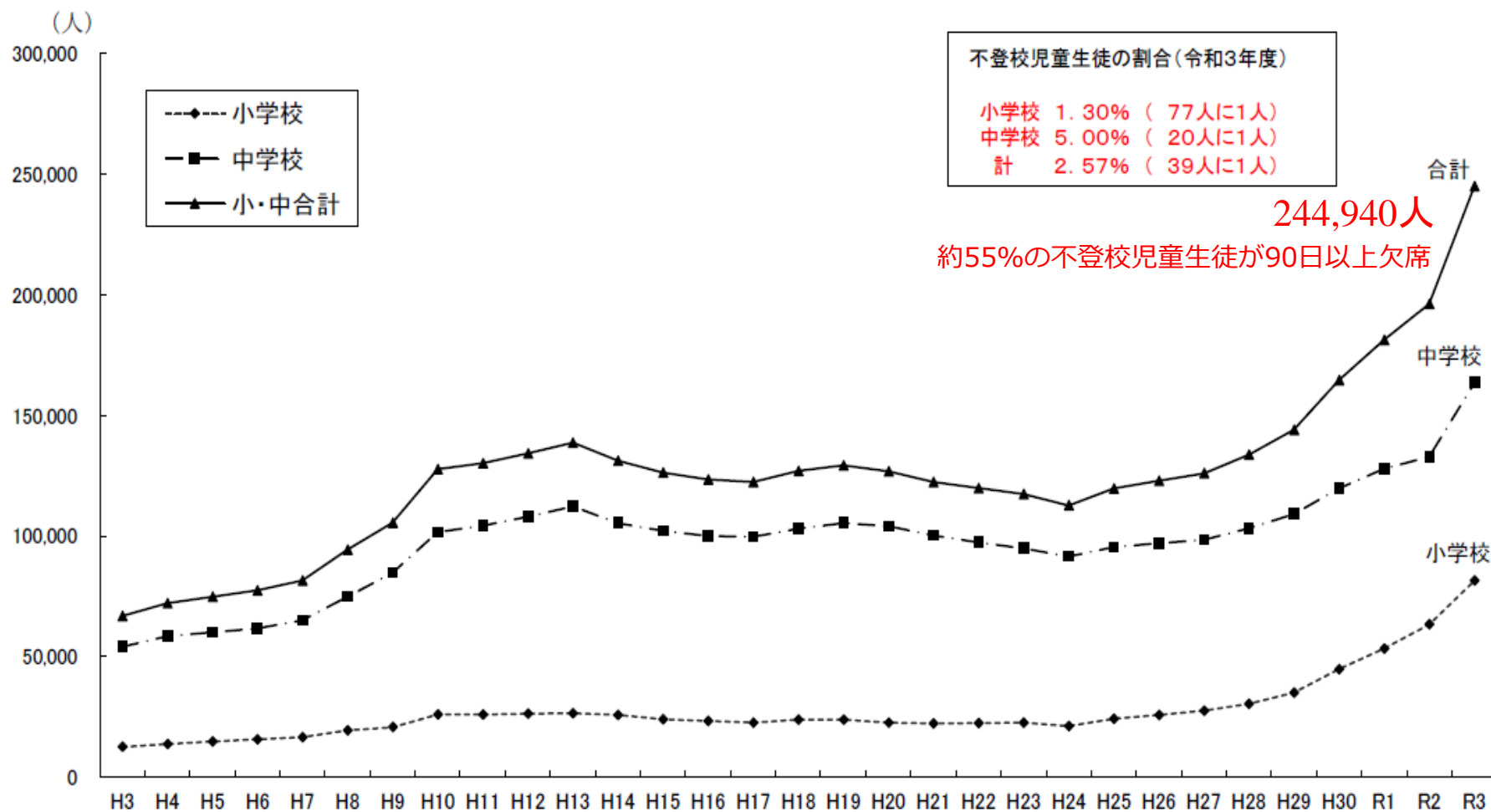
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
発生件数	179	449	314	396	474	602	723	514	705
1号重大事態	75	92	130	161	191	270	301	239	349
2号重大事態	122	385	219	281	332	420	517	347	429

1 『生徒指導提要』改訂の背景

2) 不登校の増加と長期化

不登校児童生徒数（小・中学校）の推移

(文部科学省：令和3年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査)

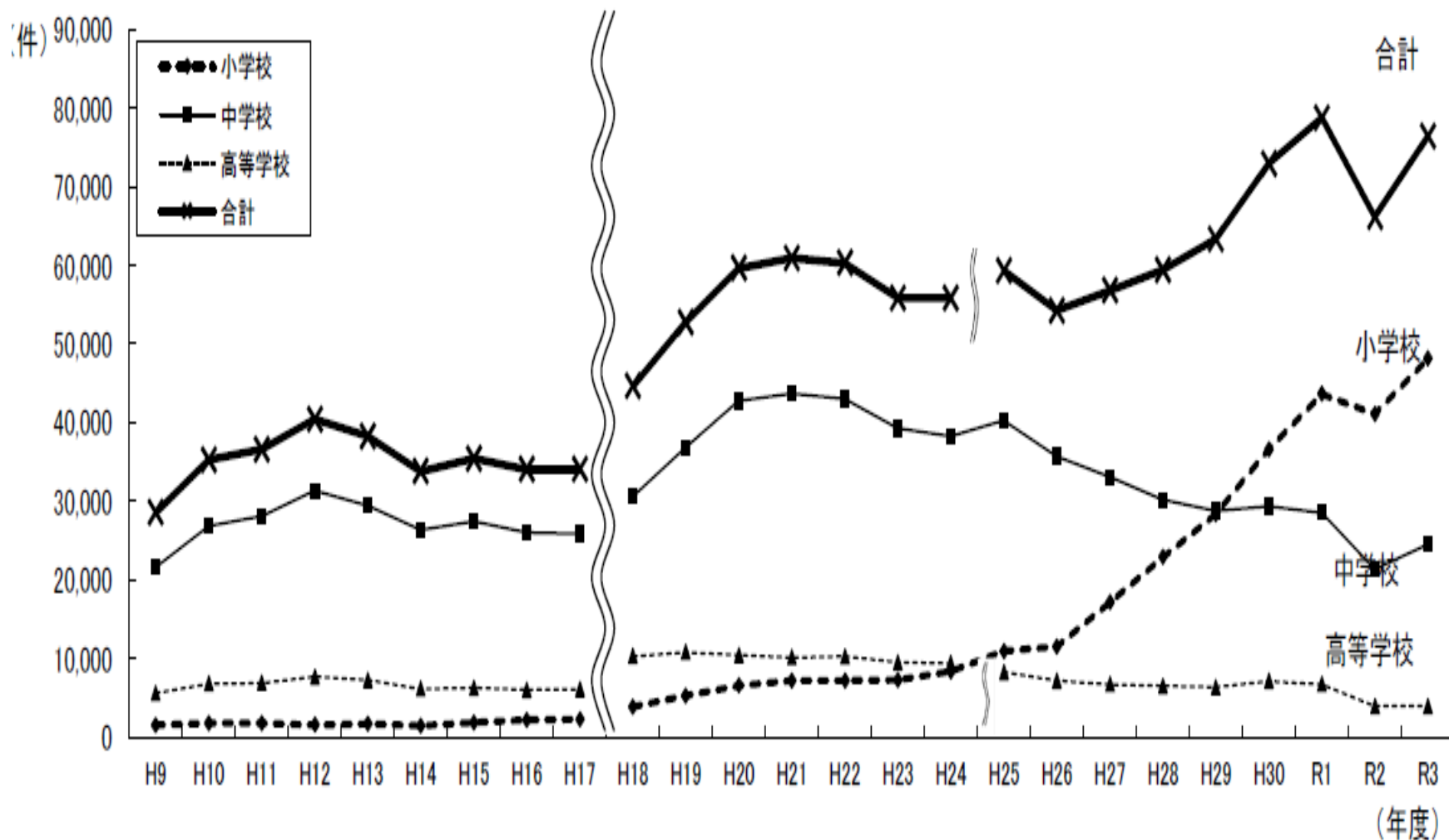


1 『生徒指導提要』改訂の背景

3) 暴力行為の低年齢における増加

暴力行為発生件数の推移

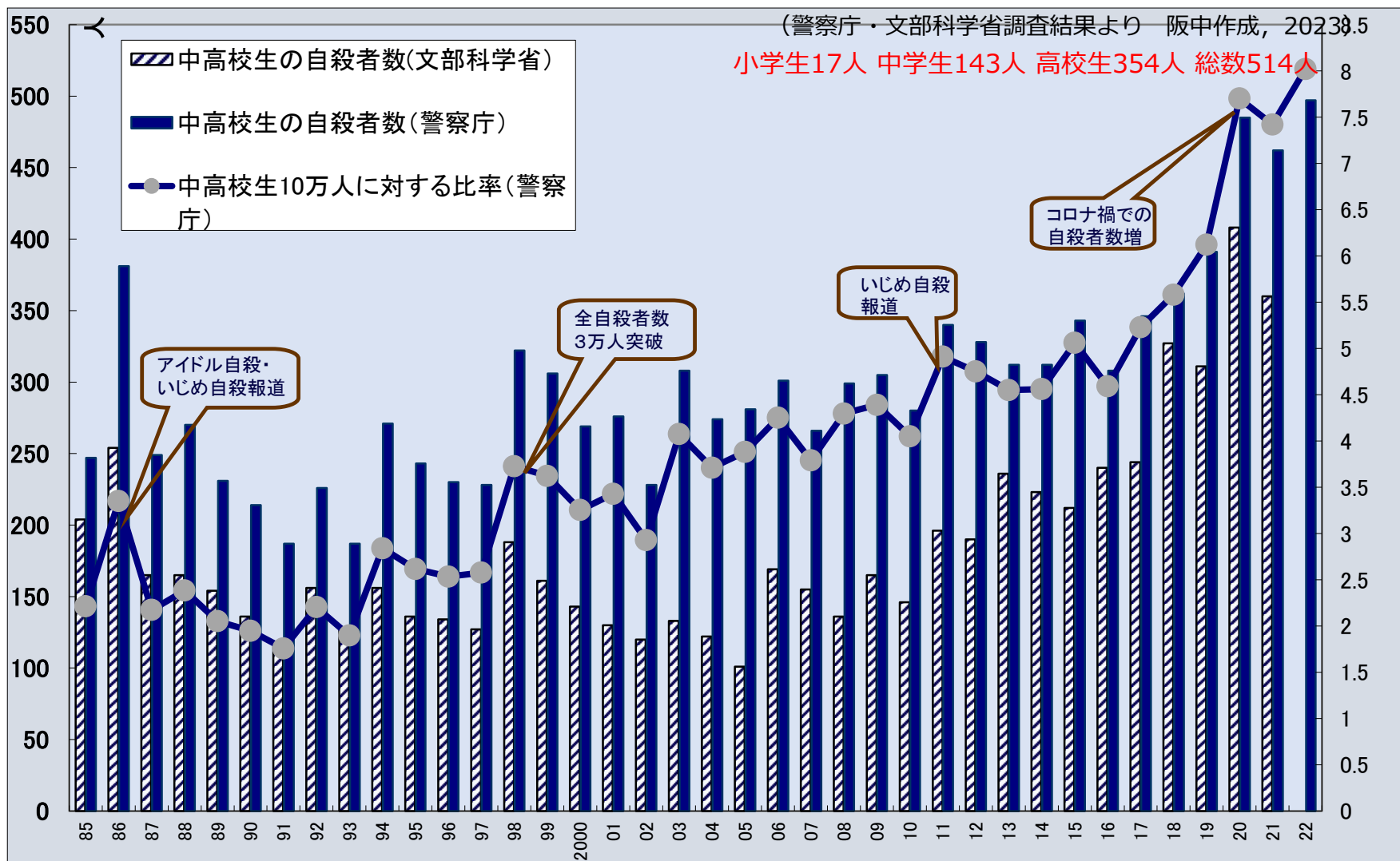
(文部科学省：令和3年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査)



1 『生徒指導提要』改訂の背景

4) 児童生徒の自殺者数の増加

中・高生の自殺者数・自殺率の推移



1 『生徒指導提要』改訂の背景

問題行動を捉える視点

問題行動 = 児童生徒による、大人や社会、教員や学校
に対する「問題提起行動」でもある

※ 「困った（行動をする）子は（課題を抱えて）困っている子」
という視点に立つ



問題行動・不登校の増加 = 「心の危機」の深刻化

1 『生徒指導提要』改訂の背景

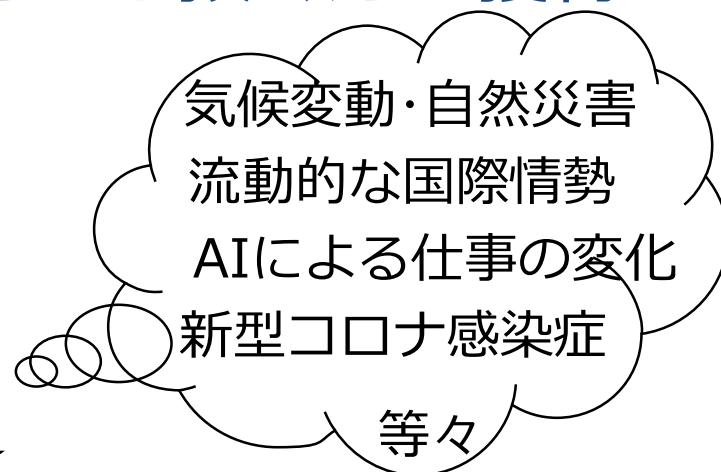
2 変動する社会状況と未来を生き抜く力の獲得

Volatility (変動性・不安定さ)

Uncertainty (不確実性・不確定さ)

Complexity (複雑性)

Ambiguity (曖昧性・不明確さ)



「予測できない未来に対応するためには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要である」

(中央教育審議会教育課程部会『審議のまとめ』論点整理1 2016)

「**エージェンシー**」

経済協力開発機構 (OECD) が重視する“**Agency**”

= 「自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく姿勢・意欲」 (文部科学省の説明)

1 『生徒指導提要』改訂の背景

3 多様な背景を持つ児童生徒の増加

Diversity（多様性）を認め、**Inclusion**（包摂）をめざす

発達障害、精神疾患、LGBTQ、児童虐待、ヤングケアラー、貧困、外国籍等

⇒ 多様な背景を持つ児童生徒へのアセスメントに基づく対応

1 『生徒指導提要』改訂の背景

3 多様な背景を持つ児童生徒の増加

Diversity（多様性）を認め、**Inclusion**（包摂）をめざす

発達障害、精神疾患、LGBTQ、児童虐待、ヤングケアラー、貧困、外国籍等

⇒ 多様な背景を持つ児童生徒へのアセスメントに基づく対応

第12章 性に関する課題

第13章 多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導

- 13.1 発達障害に関する理解と対応
- 13.2 精神疾患に関する理解と対応
- 13.3 健康課題に関する理解と対応
- 13.4 支援を要する家庭状況
 - 13.4.1 家庭の養育機能と行政の役割
 - 13.4.2 学校が行う家庭への支援
 - 13.4.3 特に行政が積極的に支援を行うもの
 - 13.4.4 経済的困難を抱える場合
 - 13.4.5 児童生徒の家庭での過重な負担についての支援
 - 13.4.6 社会的養護の対象である児童生徒
 - 13.4.7 外国人児童生徒等

（『生徒指導提要（改訂版）』2022）

1 『生徒指導提要』改訂の背景

4 生徒指導関連法規の成立と改正

2013年「いじめ防止対策推進法」成立⇒社会総がかりでいじめ防止に努める

2016年「障害者差別解消法」施行⇒合理的配慮の充実

2016年「自殺対策基本法」改正⇒学校での自殺予防教育の推進が努力義務化

2017年「教育機会確保法」施行⇒不登校児童生徒の「社会的自立」をめざす

2018年「出入国管理及び難民認定法」改正⇒外国人労働者の受け入れ拡大

2019年「児童虐待防止法」改正⇒親の体罰の禁止

2020年「社会福祉法」改正⇒地域共生社会実現への重層的支援体制の整備

2021年「少年法」改正⇒18歳・19歳の少年を「特定少年」と位置付ける

2022年「公職選挙法」「民法」等改正⇒成年年齢の引き下げ

2022年「こども基本法」「こども家庭庁設置法」成立

⇒子どもの権利・利益の擁護の実現・推進



子どもを守るためのリーガル・ナレッジ（法の理解）の必要性

※体罰や暴言などによる不適切な指導を防ぐ（コンプライアンス）

1 『生徒指導提要』改訂の背景

5 「働き方改革」と生徒指導の充実との両立

「社会や経済の変化に伴い、子供や家庭、地域社会も変容し、生徒指導や特別支援教育等にかかわる課題が複雑化・多様化しており、学校や教員だけでは、十分に解決することができない課題も増えている」

「我が国の学校や教員は、欧米諸国の学校と比較すると、多くの役割を担うことを求められているが、これには子供に対して総合的に指導を行うという利点がある反面、役割や業務を際限なく担うことにもつながりかねないという側面がある。国際調査においても、我が国の教員は、幅広い業務を担い、労働時間も長いという結果が出ている」

(中央教育審議会「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」2015)



教職員の多忙化と疲弊



問題が山積する中での丁寧な生徒指導と「働き方改革」との両立

2 生徒指導とは何か — 定義・目的・目標 —

2 生徒指導とは何か ー 定義・目的・目標ー

生徒指導の位置づけ

生徒指導は学校の教育目標を達成する上で重要な機能を果たすものであり、学習指導と並んで、学校教育において重要な意義を持つ。

『学習指導』 = 学習の指導

教える →

←

学ぶ

『生徒指導』 = ? の指導

? →

←

?

2 生徒指導とは何か 一定義・目的・目標一

生徒指導という言葉

* 『生活指導』



『生徒指導』 = Guidance & Counseling
(1949年) (指導と相談)

(アメリカの)
← スクールカウンセリング

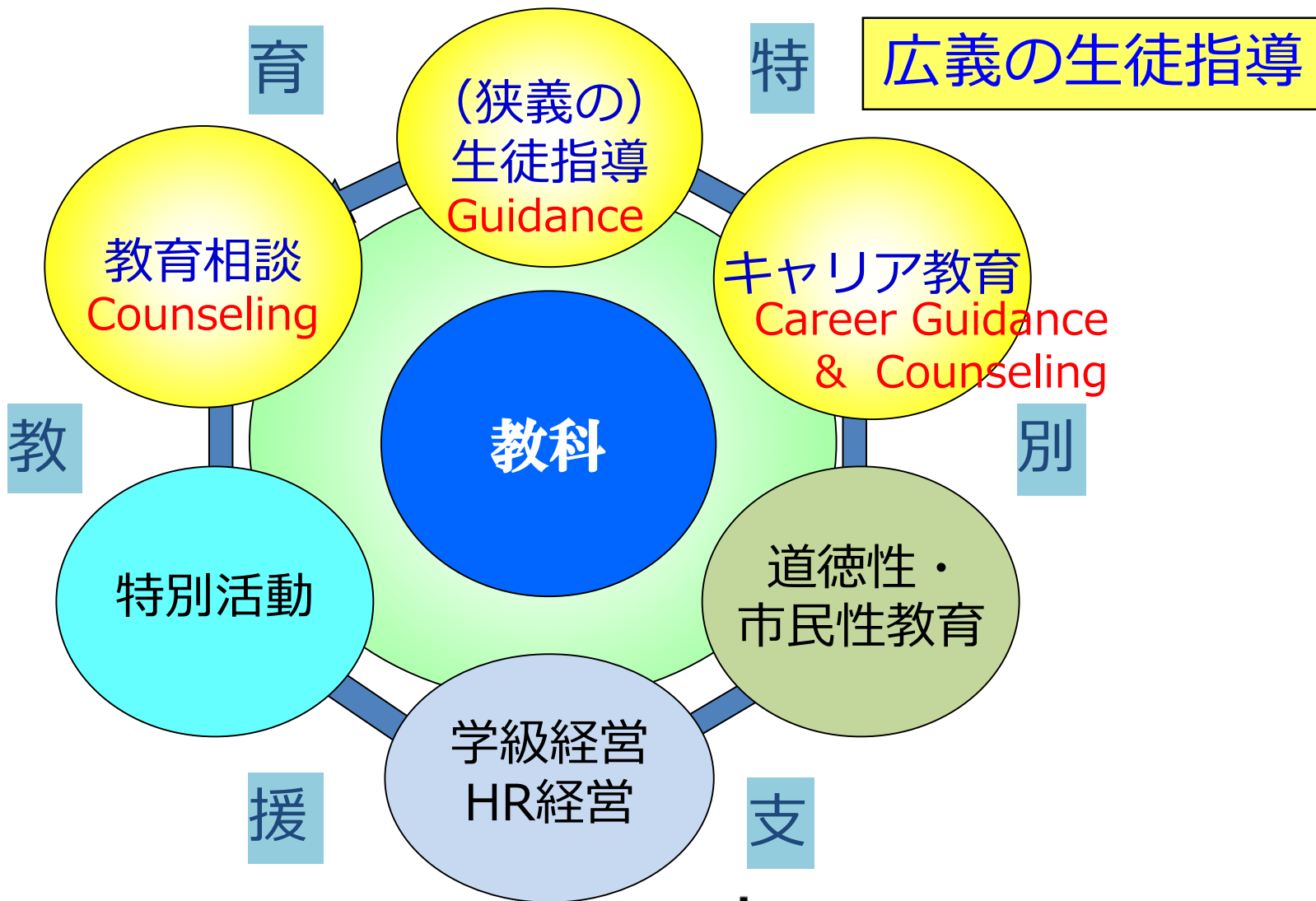
アメリカのスクールカウンセリング

「スクールカウンセリングは、個性の尊重と潜在能力の実現をめざす教育活動であり、幼稚園から高校までの教育課程の中で、総合的・開発的プログラムを作り、子ども一人ひとりの知的能力、個人的・社会的能力、職業選択能力を開発し、**責任ある創造的市民**を育てようとする営みである。」

(アメリカスクールカウンセラー協会「役割声明」1990)

2 生徒指導とは何か 一定義・目的・目標

学校の教育活動における生徒指導の位置づけ



2 生徒指導とは何か 一定義・目的・目標一

生徒指導の定義

= 「生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。なお、生徒指導上の課題に対応するために、必要に応じて指導や援助を行う。」



(『生徒指導提要(改訂版)』2022)

生徒指導は、児童生徒が自身を個性的存在として認め、自己に内在しているよさや可能性に自ら気づき、引き出し、伸ばすと同時に、社会生活で必要となる社会的資質・能力を身に付けることを支える働き（機能）です。

2 生徒指導とは何か 一定義・目的・目標一

生徒指導の目的

= 「生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支える。」

(『生徒指導提要(改訂版)』2022)



自己実現をめざす個人 + 責任ある社会づくりの担い手

<個性化>

<社会化>

教育相談・キャリア教育

狭義の生徒指導

2 生徒指導とは何か 一定義・目的・目標一

生徒指導の目標 = 自己指導能力の獲得

生徒指導の目標 =

「**自己指導能力の育成**」 （『生徒指導提要』2010）

生徒指導の目標 =

「児童生徒が、**深い自己理解に基づき**、『何をしたいのか』『何をすべきか』、**主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択、設定してこの目標の達成のため、自発的、自律的、かつ他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力、すなわち『自己指導能力』を獲得することが目指されます。**」 （『生徒指導提要（改訂版）』2022）

2 生徒指導とは何か 一定義・目的・目標一

児童生徒が自己指導能力を身につけるための 生徒指導の実践上の視点

「自己指導能力の獲得を支える生徒指導では、多様な教育活動を通して、児童生徒が主体的に課題に挑戦してみることや多様な他者と協働して創意工夫することの重要性等を実感することが大切です。」

(『生徒指導提要(改訂版)』2022)



- (1) 自己存在感の感受
- (2) 共感的な人間関係の育成
- (3) 自己決定の場の提供
- (4) 安全・安心な風土の醸成

2 生徒指導とは何か 一定義・目的・目標一

(1) 自己存在感の感受：

一人ひとりの児童生徒をかけがえない存在と捉え、個性や独自性を大切にする

(2) 共感的な人間関係の育成：

自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え、行動できる協力的な人間関係を学級の内外に築く

(3) 自己決定の場の提供：

自ら考え、選択し、決定し、行動する（発表・制作など）経験が得られる機会を意図的に設定する

(4) 安全・安心な風土の醸成：

お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活を送ることができる風土をつくる

2 生徒指導とは何か ー 定義・目的・目標ー

『学習指導』 = 学習の指導

教える →

←

学ぶ

『生徒指導』 = 社会で充実して生きること
の指導・援助・支え (⇒ 支援)

(well-being: 身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること = 幸福)

育てる →

←

育つ

3 これからの生徒指導の方向性

3 これからの生徒指導の方向性

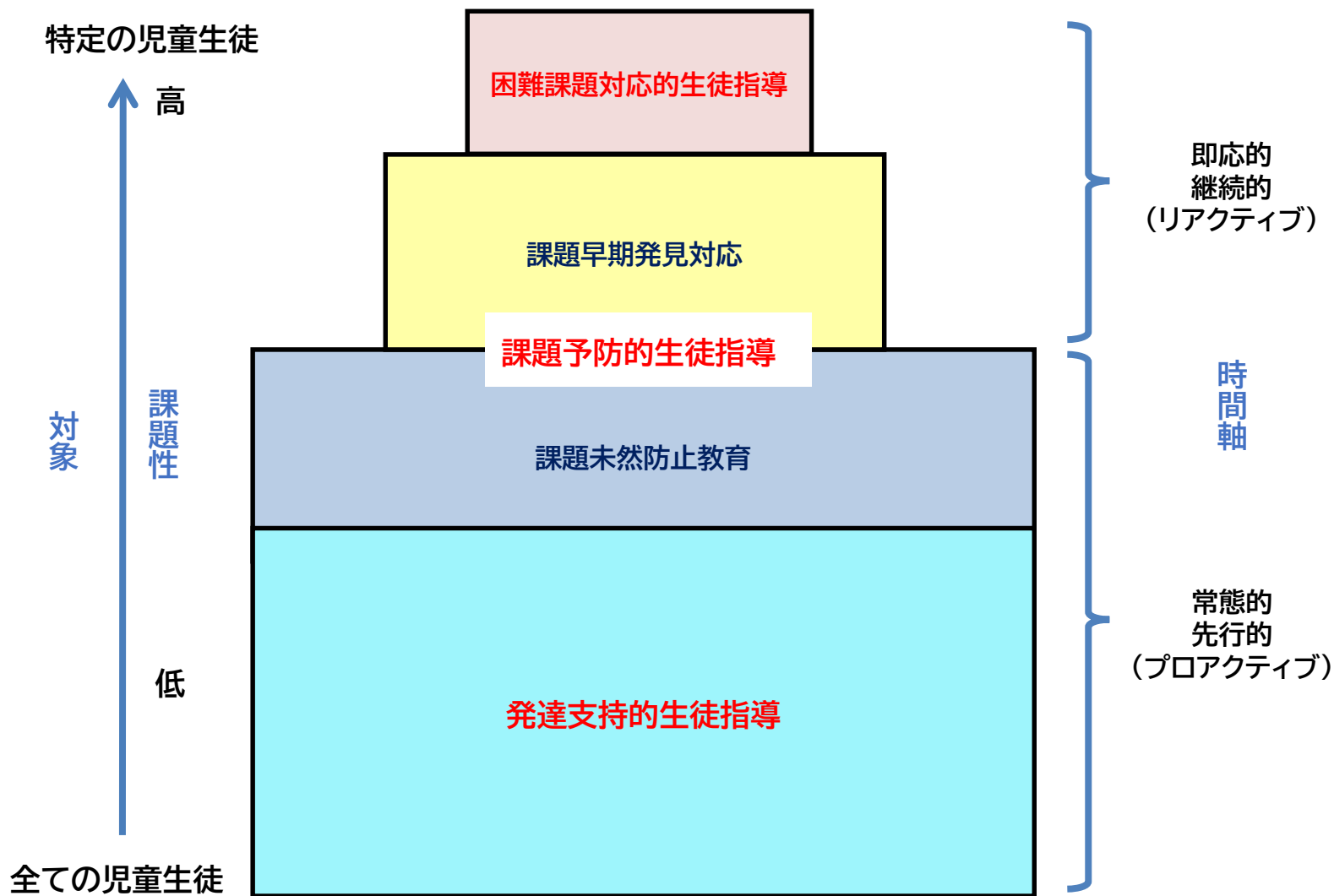
『生徒指導提要(改訂版)』が示す これからの生徒指導の基本的方向性

- (1) 児童生徒が自発的・主体的に成長・発達する過程を支える
意図でなされる教職員の働きかけとしての生徒指導の展開
特定の児童生徒に焦点化した「事後」指導・援助から、全校体制で
取り組む全ての児童生徒の「成長・発達を支える生徒指導」への転換
- (2) 学習指導と生徒指導の一体化
教科の学びを社会で充実して生きることにつながる
学習指導における児童生徒の成長・発達を支援する生徒指導
- (3) チーム学校による生徒指導体制の構築
組織的・実効的な生徒指導体制の構築
学校と専門家・関係機関及び地域・家庭との連携・協働の強化

3 これからの生徒指導の方向性

(1) 成長・発達を支える生徒指導の展開

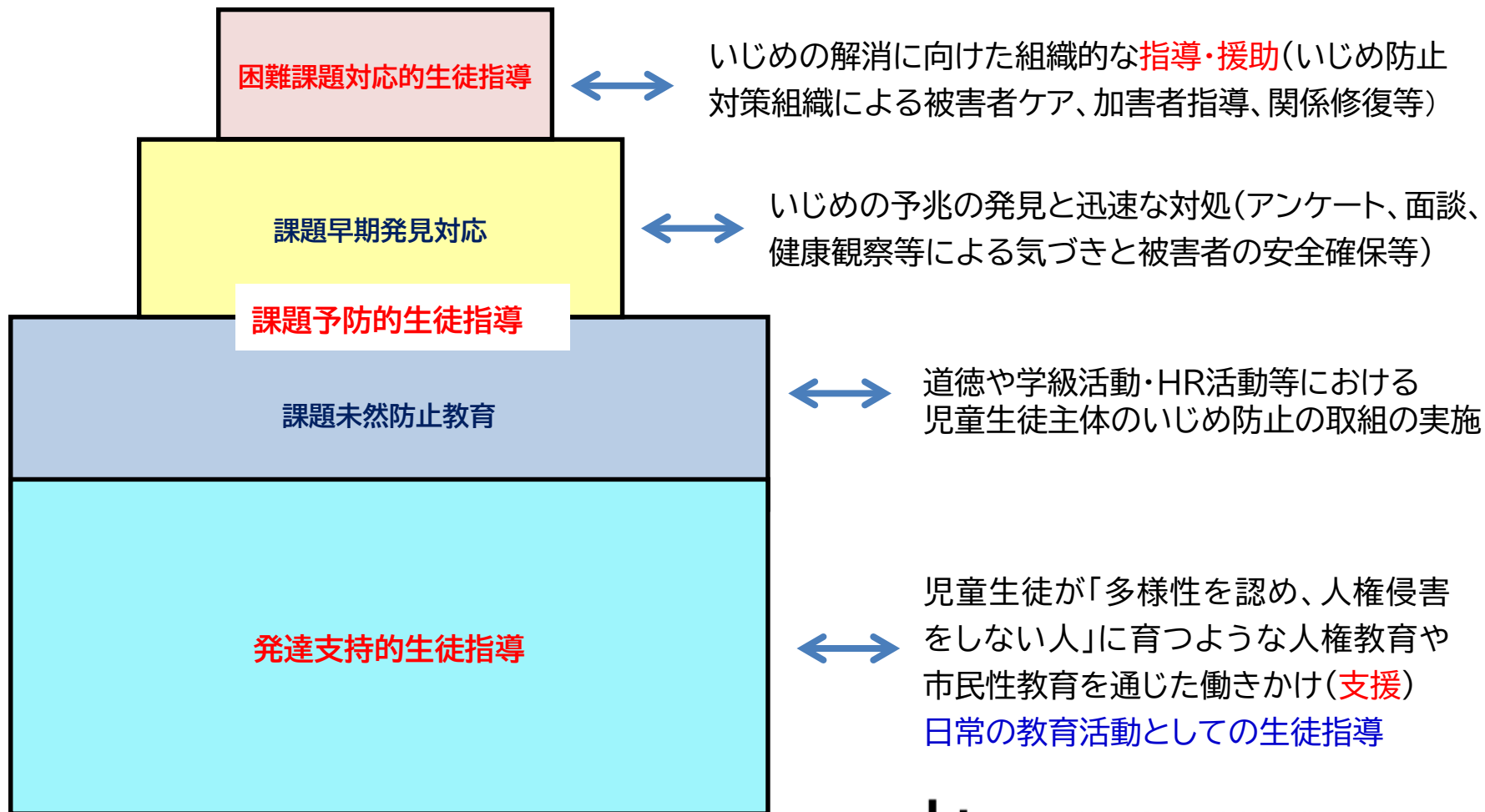
3 これからの生徒指導の方向性



(生徒指導の2軸3類4層構造)

3 これからの生徒指導の方向性

いじめ対応の重層的支援構造



3 これからの生徒指導の方向性

発達支持的生徒指導への転換

「発達支持的生徒指導は、特定の課題を意識することなく、全ての児童生徒を対象に、学校の教育目標の実現に向けて、教育課程内外の全ての教育活動において進められる生徒指導の基盤となるものです。発達支持的というのは、児童生徒に向き合う際の基本的な立ち位置を示しています。すなわち、あくまでも児童生徒が自発的・主体的に自らを発達させていくことが尊重され、その発達の過程を学校や教職員がいかに支えていくかという視点に立っています。

したがって、教職員は、児童生徒が「個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支える」ように働きかけます。

3 これからの生徒指導の方向性

発達支持的生徒指導では、日々の教職員の児童生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話、授業や行事等を通じた個と集団への働きかけが大切になります。例えば、自己理解力や自己効力感、コミュニケーション力、他者理解力、思いやり、共感性、人間関係形成力、協働性、目標達成力、課題解決力などを含む社会的資質・能力の育成や、自己の将来をデザインするキャリア教育など、教員だけではなくスクールカウンセラー等の協力も得ながら、共生社会の一員となるための市民性教育・人権教育等の推進などの日常的な教育活動を通して、全ての児童生徒の発達を支える働きかけを行います。」

(『生徒指導提要(改訂版)』2022)

3 これからの生徒指導の方向性

(2) 学習指導と生徒指導の一体化

3 これからの生徒指導の方向性

「小学校学習指導要領解説 総則編」（平成20年9月）

生徒指導の充実

学校教育において、生徒指導は学習指導と並んで重要な意義をもつものであり、また、両者は相互に深く関わっている。各学校においては、生徒指導が、一人一人の生徒の健全な成長を促し、児童自ら現在及び 将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指すという生徒指導の積極的な意義を踏まえ、学校の教育活動全体を通じ、その一層の充実を図っていくことが必要である。
(一部抜粋)



「小学校学習指導要領解説 総則編」（平成29年7月）

生徒指導の充実

学校教育において、生徒指導は学習指導と並んで重要な意義をもつものであり、また、両者は相互に深く関わっている。各学校においては、生徒指導が、一人一人の生徒の健全な成長を促し、児童自ら現在及び 将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指すという生徒指導の積極的な意義を踏まえ、学校の教育活動全体を通じ、**学習指導と関連付けながら**、その一層の充実を図っていくことが必要である。(一部抜粋)

3 これからの生徒指導の方向性

「中学校学習指導要領解説 総則編」 （平成20年9月）

生徒指導の充実

学校教育において、生徒指導は学習指導と並んで重要な意義をもつものであり、また、両者は相互に深く関わっている。各学校においては、生徒指導が、一人一人の生徒の健全な成長を促し、生徒自ら現在及び 将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指すという生徒指導の積極的な意義を踏まえ、学校の教育活動全体を通じ、その一層の充実を図っていくことが必要である。
(一部抜粋)



「中学校学習指導要領解説 総則編」 （平成29年7月）

生徒指導の充実

学校教育において、生徒指導は学習指導と並んで重要な意義をもつものであり、また、両者は相互に深く関わっている。各学校においては、生徒指導が、一人一人の生徒の健全な成長を促し、生徒自ら現在及び 将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指すという生徒指導の積極的な意義を踏まえ、学校の教育活動全体を通じ、**学習指導と関連付けながら**、その一層の充実を図っていくことが必要である。 (一部抜粋)

3 これからの生徒指導の方向性

「高等学校学習指導要領解説 総則編」 （平成21年11月）

生徒指導の充実

学校教育において、生徒指導は学習指導と並んで重要な意義をもつものであり、また、両者は相互に深く関わっている。各学校においては、生徒指導が、一人一人の生徒の健全な成長を促し、生徒自ら現在及び 将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指すという生徒指導の積極的な意義を踏まえ、学校の教育活動全体を通じ、その一層の充実を図っていくことが必要である。
（一部抜粋）



「高等学校学習指導要領解説 総則編」 （平成30年7月）

生徒指導の充実

学校教育において、生徒指導は学習指導と並んで重要な意義をもつ ものであり、また、両者は相互に深く関わっている。各学校においては、生徒指導が、一人一人の生徒の健全な成長を促し、生徒自ら現在及び 将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指すという生徒指導の積極的な意義を踏まえ、学校の教育活動全体を通じ、**学習指導と関連付けながら**、その一層の充実を図っていくことが必要である。 （一部抜粋）

3 これからの生徒指導の方向性

「特別支援学校学習指導要領解説 総則編」 （平成21年6月）

生徒指導の充実

学校教育において、生徒指導は学習指導と並んで重要な意義をもつものであり、また、両者は相互に深く関わっている。各学校においては、生徒指導が、一人一人の児童生徒の健全な成長を促し、児童生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指すという生徒指導の積極的な意義を踏まえ、学校の教育活動全体を通じ、その一層の充実を図っていくことが必要である。

（一部抜粋）



「特別支援学校学習指導要領解説 総則編」 （平成30年3月）

生徒指導の充実

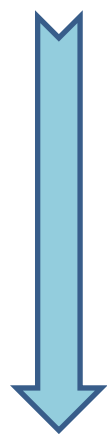
学校教育において、生徒指導は学習指導と並んで重要な意義をもつものであり、また、両者は相互に深く関わっている。各学校においては、生徒指導が、一人一人の児童生徒の健全な成長を促し、児童生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指すという生徒指導の積極的な意義を踏まえ、学校の教育活動全体を通じ、**学習指導と関連付けながら**、その一層の充実を図っていくことが必要である。 （一部抜粋）

3 これからの生徒指導の方向性

授業に内在化した生徒指導

授業のなかに、知識や思考力を育て学力を高めるだけではなく、児童生徒が個性を伸ばし社会性を身につけるように働きかける生徒指導の視点を意識して組み込んでいく。

- ・ 教室での「教科の学び」



生徒指導の実践上の視点を意識する

自己存在感の感受

共感的な人間関係の育成

自己決定の場の提供

安全・安心な風土の醸成

- 「個性の伸張・社会性の獲得」につなげる
社会で充実して生きる (well-being)


3 これからの生徒指導の方向性

(3) チーム学校による生徒指導体制の構築

3 これからの生徒指導の方向性

「チームとしての学校」

- ・ 多様な専門人材が責任を伴って学校に参画
(2017年の「学校教育法施行規則」の改正により、SCは学校において心理に関する支援に従事する、SSWは学校において福祉に関する支援に従事する「職員」として位置づけられた。)
- ・ 教員はより教科指導や生徒指導に注力
- ・ 学校のマネジメントが組織的に行われる体制を構築
- ・ チームとしての学校と地域の連携・協働を強化

 「社会に開かれたチームとしての学校」

(中央教育審議会「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」2015)

3 これからの生徒指導の方向性

多職種連携の基盤としての相互理解と相互尊重

教職員と専門職、保護者、地域の関係機関が子どもをめぐって協力し合うパートナーとしての関係を築く

教職員は教育の専門家。専門職、関係機関は固有の専門性や役割をもつ社会資源。保護者は親という固有の立場からわが子と真剣に向き合う子育ての専門性をもった存在。専門性の内容についての理解を深めるとともに、相互に尊重し合うことが大切。

子どもの問題をめぐって、教職員と専門職・保護者・関係機関が目標を一致させるように努める。
子どもの危機は社会の問題という認識を共有する。

3 これからの生徒指導の方向性

学校と地域・関係機関との連携

地元の関係機関を具体的に知る

- 児童相談所（子ども家庭センター）・福祉事務所
 - 教育研究所相談室・教育相談センター
 - 臨床心理士会、ソーシャルワーカー
 - 精神保健福祉センター・保健所
 - 精神科思春期外来・心療内科クリニック
 - 救急病院
 - 青少年（サポート）センター
 - 民生児童委員
 - 消防署・警察署
- 等々

➡ 何処にあって、誰がいて、何ができて、何ができないのか

3 これからの生徒指導の方向性

「社会に開かれたチームとしての学校」が 生徒指導にもたらす効果

- ◆ 学校は教育機関であることを踏まえ、多職種の専門家や関係機関に早めの『相談』を積極的に行うことで、問題の早期解決に努める。
- ◆ 担任一人ではできないことも、教職員や多職種の専門家、関係機関がチームを組み、役割分担をすることで、指導、支援の幅や可能性が広がる⇒教職員は子どもへの関わりの密度を高める
(支援者の負担を分散することで支援の質を高める)
- ◆ 学校だけでは対応しきれない部分をカバーしたり、よりよい解決の方向性を見出したりするためには、多職種の専門家との連携が必要
(異質な発想が交流することで新たな支援策が生まれる)

3 これからの生徒指導の方向性

『生徒指導提要(改訂版)』が示す これからの生徒指導における取組上の留意点

(1) 児童生徒の権利に関する教職員の共通理解

子ども支援の視点に立った生徒指導

国連「児童の権利に関する条約」及び「こども基本法」

に即した子どもの権利・利益の擁護の実現・推進

(2) ICTを活用した生徒指導の推進

データを用いた生徒指導と学習指導の関連付け

悩みや不安を抱える児童生徒の早期発見・対応

不登校児童生徒の教育機会の確保

(3) 幼児教育と小学校教育との円滑な接続

幼保小の教職員による「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

の共通理解とスタートカリキュラムの工夫

(4) 社会的自立に向けた切れ目のない支援

児童生徒が社会の中で自分らしく生きることができる存在となる

ような学校と社会をつなぐ継続的支援とキャリア教育の充実

3 これからの生徒指導の方向性

児童の権利に関する条約（1989年）

「生徒指導を実践する上で、**児童の権利条約の四つの原則**を理解しておくことが不可欠です。四つの原則とは、第一に、児童生徒に対するいかなる差別もしないこと、第二に、児童生徒にとって最もよいことを第一に考えること、第三に、児童生徒の命や生存、発達が保障されること、第四に、児童生徒は自由に自分の意見を表明する権利を持っていることを指します。」

こども基本法（2022年）

「こども基本法においては、**日本国憲法及び児童の権利に関する条約の精神**にのっとり、次代の社会を担う全てのこどもが、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、こどもの心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指して、こども施策を総合的に推進することが目的として示されています（第1条）。」

（『生徒指導提要（改訂版）』2022）

【リフレクション】

授業は全ての児童生徒を対象とした発達支持的生徒指導の場です。各自の授業を振り返って、児童生徒が自己指導能力を身につけるための生徒指導の実践上の視点が組み込まれた授業展開になっているかどうか、また、これから実践上の視点を意識した授業づくりを進めるうえで、どのような工夫が考えられるか、検討してみましょう。